

# モルドバ週報

【2月22日～2月28日】

作成 在ウクライナ日本国大使館  
平成26年3月4日

#14-05  
〔モルドバの報道をもとに作成〕

## 1. 内政

- ・24日、ヴォロニン共産党書記長は、同党はモルドバの欧州近代化は支持するが、欧州統合は支持しない旨発言。一方で、（ロシア主導の）関税同盟は現在のモルドバに適しているとは思いますが、同時に最高会議選挙に向けて、外交路線の選択がモルドバの社会を分断することは望まない旨発言。
- ・27日、マリニツァ国防相は、辞意を表明しレアンカ首相はこれを受理、後任は未定。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」（ロシア語読み）を暫定的に「キシナウ」（モルドバ語読み）と表記しています。

（了）

## 2. 外政

- ・24日、ゲルマン外務・欧州統合相は、リンケヴィチス・ラトビア外相及びリンケビチユス・リトアニア外相と会談し、2014年のモルドバの課題である連合協定署名及び査証免除導入に関し議論し、両国の揺るがぬ支持に感謝する旨伝えたと発表。
- ・24日、サボルツV4（ヴィシエグラード・グループ）政務局代表はキシナウにて、同グループ4ヶ国がモルドバの欧州統合プロセスを最も支持している国である、モルドバ国民に対する査証免除は本年5月には導入されるだろう旨発言。
- ・27日、欧州議会は、モルドバ国民に対する査証免除導入を賛成多数で採択。
- ・28日、米国務省は、人権レポートにて、モルドバ居住のロマ人が継続的な差別を受けていると発表。
- ・28日、レアンカ首相は、ヤツェニウク宇新首相に対し、就任祝賀メッセージを送った旨発表。